



1

## Inner Voices—内なる声

2011.7.30—11.6

世界の中に自分の居場所を見つけていく過程で作り上げられるアイデンティティを、人々はどうのように引き受けていくのだろうか。まずこの問いを立てるには、アイデンティティの問題自体に遭遇しているかどうかを問わねばならない。「Inner Voices—内なる声」展では、特にアジア諸国に出自と活動拠点を置く女性作家たちを取り上げ、この問いに真摯に向き合う作品を紹介した。異なる国家や文化との遭遇は、以前にも増して頻繁に起きて、我々に不安定で不確かな感情を引き起こす。出生によって自動的に帰属することが明白で、他のどのアイデンティティよりも優先されたナショナル・アイデンティティさえ、現代では断片化され、放棄され、代わって一人一人が、自らのアイデンティティを探し求めている。そのうえ、時代が進むにつ

れ、アイデンティティを規定する実体が複雑化し、もはや或るひとつの準拠や枠組みは永続するものではないのだ。とすれば、同時代に生きる人々の多くは、ますますアイデンティティの問題に直面するのではないかと予想できる。出品作家のひとりシルパ・グプタ(インド・ムンバイ生まれ)による《無題(ここに境界はない)》(2005-2006/2011)は、作品タイトル文が黒字で印刷された黄色いビニールテープで、壁に旗を描いた作品である。環境問題、戦争難民、政治における権力闘争、宗教、ジェンダー、人種と、さまざまなテーマを行き来しながら、特にひとつの態度を示すわけではない。前世代が示す賛成か反対かの二項対立からしか導きだせない結論とはずいぶん違う態度表明である。しかし、グローバリゼーションの波に乗りなが

ら、常に立場を更新し続けなければならないグプタの世代にとっては、必然であろう。アイデンティティをめぐる問題との遭遇は、社会学者のみならず時代に向き合う現代美術の作家によっても異なる形で取り上げられてきているが、短期間に激しく変化するグローバル化した世界では、伝統や権威、または堅固に構築されたアイデンティティを持つ事はもはや前時代的であり、自由の制約であると考えた世代の登場を促し、シルパ・グプタはこの作品によってそのことを軽やかに印象づけた。

女性作家の視点は、固定化した価値観やあらかじめ定められた複数の原則の中で検討してきた歴史があり、それは今も忍耐強く考察が重ねられてきている。ジェマイマ・ワイマンによるサパティスタ国民解放軍の構成員が被るマ



2



5



3



4



6

スクをテーマにした絵画と映像作品《Combat Drag》のシリーズはアイデンティティを隠し混乱させることで、より大きな力の集結を堂々と実行できる表象と無名性の関係を扱っている。現代のネットワーク内で起きていることを可視化させ、「こっそりと忍び寄る抵抗の方法」として有用であることを示すものだ。呉夏枝は在日3世韓国人として、自身を同一化できるルーツを探しながら、その間に遭遇する民族国家間に揺れる女性の声を丁寧に取り扱った《あるものがたり》(2011)を発表。戦後世代の感じる世代間の断絶を、記憶を語ることで母や祖母への経路に至る感情を照射するものであった。塩田千春は歴史が置き去りにする人間の記憶や感情を、「不在」を見せることによって浮き彫りにする作品で知られている。早くに日本を出てド

イツ・ベルリンに移住した彼女にとって、自分を何者と定義付けるかという境界の壁は、人の身体に流れる血の中にあるとするビデオ作品《Wall》(2010)と、《不在との対話 / Dialogue with Absence》(2010)を発表した。差異によって起きることへの誤解や無理解を、対立や抵抗でないかたちで乗り越えようとするのは、塩田だけでなく、本展覧会で紹介したどの作家にも通じるものがある。芸術表現において自由であることが、世界において同程度に普遍的で重要であると、特にアジアに生きる女性アーティストはさまざまな表現によって心の声を届けようとしている。

(黒澤浩美)

1. 展示室14前：展示風景  
シルバ・グプタ  
《無題(ここに境界はない)》2005-2006/2011年、プラスチックテープ、サイズ可変  
金沢21世紀美術館蔵
2. 展示室8：展示風景  
塩田千春  
《不在との対話》2010年、ミクスト・メディア、サイズ可変  
作家蔵  
courtesy of the artist and KENJI TAKI GALLERY
3. 展示室11前：展示風景  
呉夏枝  
《あるものがたり》2011年、黄麻、女性の声  
H40×W127×D9 cm  
テキスト：Joy Kogawa“Obasan”  
作家蔵
4. 展示室14：展示風景  
シルバ・グプタ  
(手前)《私はあなたへと落ちていく》2010年、数千本のマイクロフォン、マルチ・チャンネル・オーディオ  
Collection of Tiroche DeLeon  
(奥)《無題》2011年、マイルド・スチール、サイズ可変  
作家蔵
5. 展示室7：展示風景  
イー・イラン  
(左)《オラン・ブサル・シリーズ カイン・バンジャンと不機嫌なケバラ》2010年、H106.7×W234 cm  
酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インク  
ジェット捺染、含金属型反応染料レザロールを用いた  
チャンチンによるバティック、100%絹綾織布  
金沢21世紀美術館蔵  
(右)《オラン・ブサル・シリーズ カイン・バンジャンと肉食性のケバラ》2010年、H106.7×W234 cm  
酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インク  
ジェット捺染、含金属型反応染料レザロールを用いた  
チャンチンによるバティック、100%絹綾織布  
金沢21世紀美術館蔵  
© Yee I-Lann
6. 展示室10：展示風景  
ジェマイマ・ワイマン  
《戦闘 #2》2008年、カンヴァスにアクリル、  
H200×W320 cm (overall)  
個人蔵  
  
Photo: KIOKU Keizo